

第 43 回

鳥取県西部歯科臨床懇談会

と き 令和 6 年 3 月 10 日(日)  
午前 9 時 30 分 ~ 午後 2 時 40 分

ところ 米子市両三柳104-1  
鳥取県西部歯科医師会館  
☎ 33-3864

主催 鳥取県西部歯科医師会学術委員会

## 第43回 西部歯科臨床懇談会によせて

鳥取県西部歯科医師会

会 長 植 木 泰 久

陽春の候、令和6年3月10日（日曜）恒例になっております鳥取県西部歯科医師会臨床懇談会が43回を迎えることが出来ました。

令和5年5月にコロナが5類に位置付けられ、インフルエンザと同等な感染症の扱いになりました。

しかしコロナが消失したわけではなく、現在でもウイルスは変異しながら存在しています。

我々医療従事者は感染症に留意しながら事業を実施していかなければなりません。

今回は滋賀県で泉歯科医院をご開業されている泉英之先生をお迎えし「外傷歯の診断と治療」と題したご講演をして頂きます。

また鳥取大学歯科口腔外科と会員の発表を予定しております。

この会の開催にご理解と協賛を頂いている関係各位の皆様には感謝申し上げます。特にHALLEON（グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン(株)）様には多大なる御支援を頂いた事に感謝致します。

この会がご参加される会員の日常の臨床に役立ち意味ある会になることを願い挨拶とさせていただきます。

## 第43回 鳥取県西部歯科臨床懇談会日程

- 9:00 ～ 受付開始
- 9:30 ～ 会長挨拶
- 9:35 ～ 10:20 一般口演  
座長 岡本秀治

1) 抗RANKL抗体の治療的休薬を行った  
薬剤関連顎骨壊死 stage 3 の局所と骨転移への影響

鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 口腔顎顔面外科学分野

○八尾 知亜紀、奈良井 節、原田 祐貴  
小谷 勇

2) 顎関節症状のある下顎後退症に対して上顎骨切り術と  
オトガイ形成術で対応した外科的矯正治療例

○安田 竜弥<sup>1)</sup>、片岡 伴記<sup>2)</sup>、田村 隆行<sup>3)</sup>  
原田 勇聖<sup>3)</sup>、川崎 誠<sup>3)</sup>、小谷 勇<sup>2)</sup>

1) 鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

2) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 口腔顎顔面外科学分野

3) 鳥取大学医学部附属病院 歯科口腔外科

3) 口腔顔面痛疾患症例および菌原性菌痛と非菌原性菌痛の  
鑑別について

小田歯科医院 小田 浩一

**10:30 ~ 12:00**

**特別講演**

座長 足本 敦

外傷歯の診断と治療

滋賀県開業 泉歯科医院 泉 英之

**12:00 ~ 13:00**

昼休憩・展示見学

**(12:05 ~ 12:40)** ランチョンセミナー

「象牙質知覚過敏症シュミテクト+新製品のご案内」

グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社

歯科衛生士 松本 唯

**13:00 ~ 14:30**

**特別講演**

座長 足本 敦

外傷歯の診断と治療

滋賀県開業 泉歯科医院 泉 英之

**14:30 ~ 14:40**

閉会の挨拶

# 1) 抗RANKL抗体の治療的休薬を行った 薬剤関連顎骨壊死 stage 3 の局所と骨転移への影響

鳥取大学医学部感覚運動医学講座口腔顎顔面外科学分野

○八尾 知亜紀      奈良井 節      原田 祐貴      小谷 勇

## 【緒言】

薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) stage 3 は日常生活や原疾患の治療に悪影響を与える重篤な顎骨壊死である。治療的休薬を含めた治療法の選択については未だ議論が多い。今回われわれは抗RANKL抗体の治療的休薬を行ったMRONJ stage 3 の2例を経験したので局所と骨転移への影響について報告する。

## 【症例の概要】

症例1：69歳、女性。左下45抜歯後の左側下顎骨の疼痛および左側頤部の知覚異常を認め紹介受診した。乳腺外科で左側乳癌術後再発胸骨転移に対して抗RANKL抗体が投与されていた。左側下顎骨MRONJはstage 3に進展し、乳腺外科医と協議の上で抗RANKL抗体を休薬した。休薬後に腐骨分離を認め、腐骨除去後にMRONJは治癒した。化学療法は継続され骨転移の増悪は認めていない。

症例2：77歳、男性。右下456部の骨露出および頤部瘻孔からの排膿を認め当科受診した。泌尿器科で前立腺癌多発骨転移に対して抗RANKL抗体が投与されていた。両側下顎骨MRONJ stage 3に対し、泌尿器科医と協議の上で抗RANKL抗体を休薬した。休薬後に腐骨分離を認め、腐骨除去後にMRONJは治癒した。化学療法は継続され骨転移の増悪は認めていない。

## 【結果】

MRONJ stage 3 の2例共に、腫瘍治療医と協議の上で抗RANKL抗体の治療的休薬後に腐骨分離を認めた。そのため腐骨除去術を施行し治癒した。また、MRONJのコントロールにより化学療法の中断は無く、骨転移の増悪も認めなかった。

## 2) 顎関節症状のある下顎後退症に対して上顎骨切り術と オートガイ形成術で対応した外科的矯正治療例

○安田 竜弥<sup>1)</sup> 片岡 伴記<sup>2)</sup> 田村 隆行<sup>3)</sup> 原田 勇聖<sup>3)</sup>  
川崎 誠<sup>3)</sup> 小谷 勇<sup>2)</sup>

1) 鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

2) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 口腔顎顔面外科学分野

3) 鳥取大学医学部附属病院 歯科口腔外科

顎変形症の症型分類では下顎前突症より下顎後退症で顎関節症を伴うことが多い。下顎後退症では下顎前方移動術後に後戻りや顎関節症状が現れることがあり、治療法の選択に苦慮する。

今回、顎関節症状を伴う下顎後退症に対し、上顎骨切り術で上顎の上方移動を行い、下顎をオートローションさせて治療を行ったので報告する。

初診時年齢30歳11か月の女性で顎関節症状と下顎後退感を主訴に来院した。正貌は左右対称、側貌はコンベックスタイプで、ハイアングル、臼歯関係Ⅱ級、過大なオーバージェット、重度叢生、上顎前歯唇側傾斜を呈した。

治療としては、上下顎犬歯の便宜抜去、上顎骨切り術および顎形成術を併用した外科的矯正治療を行った。通常、下顎後退症には下顎前方移動術が行われ、その方が審美的にも咬合再建上でも有利である。しかし、顎関節症状を伴う症例では長期的安定性等を考慮して治療方針や術式を決める必要もあると考えられる。

### 3) 口腔顔面痛疾患症例報告と歯原性歯痛と非歯原性歯痛の鑑別について

小田歯科医院

小田 浩一

平素の診療において患者さんの訴える痛みがどの部位なのかすぐに分からないことがある。それには患者さん自身もよく分からない場合もあれば、患者さんはこの歯だと訴えられるが我々医療者サイドがそうではないと思う症例もある。

昨年4月、日本口腔顔面痛学会の認定医を取得させて頂いた。数年前に西部歯科医師会の臨床懇談会にて講演して頂いた静岡市立清水病院口腔外科口腔顔面痛外来勤務で日本口腔顔面痛学会指導医・専門医の井川雅子先生と前日の懇親会で、精神疾患と歯痛との関係の話で意気投合し、「小田先生、山陰地方初の日本口腔顔面痛学会認定医になって下さいよ。」とお勧め頂き、私も口腔顔面痛疾患に関心が高かったので認定医にチャレンジしてみようと思ったのがきっかけであった。

患者のいわゆる「不定愁訴」と呼ばれていた症例のうち、かなりの数が筋・筋膜痛性歯痛であることが分かり、また割合としては多くはないものの精神疾患と大きな関連がある症例があることも分かってきた。

今回、認定医を取得するにあたって提出した38名分の口腔顔面痛疾患症例報告のうち、皆さんの参考になるであろう10症例を簡単に報告し、精神疾患が原因であった症例や、患者さんの訴えと全く違う場所の歯が原因だった症例を含め、歯原性歯痛と非歯原性歯痛の鑑別法について紹介させて頂く。

## 特別講演

### 「外傷歯の診断と治療」

滋賀県長浜市開業 泉歯科医院 院長  
泉 英之

外傷歯は日常臨床でそれほど頻度の高い治療ではありませんが、歯科治療の中で緊急性の高い処置の一つです。そのなかでも脱離歯は特にその扱い次第で歯の寿命が決まる歯の救急救命ともいえるでしょう。しかし、実際に外傷歯に遭遇する場面は多くはなく、いざ外傷歯の患者さんが来られた時にどのように対応すればよいか迷うかもしれません。

このような「頻度は低いが高緊急度の高い外傷歯治療」には、ガイドラインやマニュアルを手元に置いておくことや、それらを読み疑似体験することで、適切に対応できるかもしれません。

そこで今回は2011年に国際外傷歯学会のガイドラインやワールドスタンダードなテキストをもとにそれぞれのタイプの外傷歯に対する診断と治療方針を示したいと思います。

今回の内容が一人でも多くの外傷歯の患者さんを救う一助となることを願っています。



泉 英之 (いずみ ひでゆき)

略歴：

- 1974年 富山県富山市に生まれる
- 2000年 日本大学松戸歯学部卒業
- 2000年 日本大学松戸歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座
- 2004年 西本歯科医院
- 2021年 泉歯科医院

著書：

- ・コンポジットレジンと審美修復 クインテッセンス出版、2012年 (共著)
- ・リクッチのエンドドントロジー クインテッセンス出版、2017年 (監訳)
- ・治る歯髄 治らない歯髄 歯髄保存の科学と臨床  
クインテッセンス出版、2018年

その他：

- ・国際外傷歯学会、フェロー
  - ・自家歯牙移植・外傷歯学研究会、会長
  - ・ドクターブックアカデミー オンラインコース
- 治る歯髄 治らない歯髄 - 歯髄保存の科学と臨床 - 全11回  
<https://academy.doctorbook.jp/doctors/681#>

## 協 賛

(株) 玉 井 歯 科 商 会

(有) 桜 井 歯 科 商 会

(有) 中 尾 歯 科 商 会

(株) モ リ タ 岡 山 営 業 所

グラケノ・スミスクライン・コンシューマー・  
ヘルスケア・ジャパン株式会社